

ユニセフパークプロジェクト 2005 サマーキャンプ 結果概要



4日目栗林にて

日時 2005年8月6日(土)～9日(火) 3泊4日

場所 『活動』: 国営明石海峡公園 神戸地区 (神戸市北区山田町藍那)
『宿泊』: 生活協同組合コープこうべ研修施設「協同学苑」(三木市志染町青山)
2日目の宿泊は、活動場所でテント泊をしました。

参加者

『子ども』

合計: 27名

性別 男: 20名 女: 7名

年齢 小学校3年生～高校生 (小学生 19名 中学生 2名 高校生 6名)

地域 新潟: 14名 (うち12名は小千谷市の小学生) 兵庫: 6名 大阪: 7名

『ファシリテーター (ボランティア)』

合計: 47名

年齢 16歳～70歳 (学生: 34名 社会人・主婦他: 13名)

主催: ユニセフパークプロジェクトファシリテーターグループ

協力: 財団法人 日本ユニセフ協会

後援: 国土交通省近畿地方整備局国営明石海峡公園事務所

社団法人 日本公園緑地協会 近畿コカ・コーラボトリング株式会社

協賛: 神鉄バス株式会社 株式会社ジャパンリース



阪神・淡路大震災 10周年記念事業の助成を受けて実施しました。



活動内容

このキャンプでは、世界の子どもの現状や自然と人間との共生、日常生活のありがたさなどを、感じることができるプログラムを準備しました。このキャンプを通して自分にできることを考え、日常に持ってかえって動き出す、そんな「地球市民」になってくれることを願っています。

『1日目』曇り時々晴れ 仲良くなる(里山探検ほか)

1日目は、お昼にみんなが初めて顔をあわせ、まずは里山探検にでかけました。里山探検では、自然に触れたり、里山に関することを知ったりするクイズやネイチャーゲームを行い、その中で参加者同士がうちとけあいました。夕方には宿泊施設に移動し、その夜に世界の子どもの現状を知る学習会を行いました。

『2日目』晴れ時々曇り つくる(遊び場づくり、テント泊ほか)

2日目は、本格的に遊び場づくりを始めました。里山の仙人から設計図をもらい、その指示に従い、材料を集めたり、ロープで結んだりしました。遊び場づくりの後は、夕方から自分たちでテントをはり、自炊をおこないました。夜は、夜の自然の音を聞きながらゆっくり散歩し、里山のこと(自然の人間との共生)についてみんなで話し合いました。この日は活動場所でテント泊をしました。

『3日目』晴れ時々曇り 遊ぶ(遊び場づくり、水運びほか)

3日目も、引き続き遊び場づくりをしました。前日につくった土台(去年の遊具の補修・整備など)に、さらに自分たちのつくりたいものをつくりました。遊び場づくりの途中では自分たちの飲料水を遠い場所に取りに行き、水がめ運びの疑似体験をしました。その日は協同学苑にもどり、キャンプ最後の夜をキャンプファイヤーで盛り上げました。最後はみんなで、キャンプを通して感じたことを語り合いました。

『4日目』晴れ時々曇り 伝える(発表会ほか)

4日目は、自分たちがつくった遊具にどんな思いがこめられているのか、を発表してもらいました。発表後は、できた公園で遊びまわりました。その後、子どもたち一人一人が、キャンプで感じたことを家族へ伝えるため、手紙を書きました。閉会式ではみんなでお歌をうたい、里山と、公園と、友達とお別れをしました。



世界の子どもの現状を知る。



水がめ運びを実際に体験する。



階段をつくるため、杭を木槌で打つ。



道具を収納するため、倉庫をつくる。

ユニセフパークプロジェクト 2005 サマーキャンプ 結果概要

家族へ書いた子どもたちの手紙(キャンプで感じたこと)

母ちゃん、じいちゃん、ばあちゃん×2へ

みずがめいっぱいの水をはこびました。おもくてすこししかはこべなかったのに、ほかの国の子どもしかも女の子が1時間いじょうかけておくのほうの小川からくんでくるなんてびっくりしました。

キャンプファイヤーもしました。キャンプファイヤーのとき、みんなでわになってうたをうたいました。

こうえんづくりでものおきをつくりました。ものおきの名前は、UP君ものおきです。UPくんというのは、UPPのキャラクターです。せんにんにもらったのは一番ながいまきものでした。

たのしかったです。(小学生・男子)

おとうとへ

今回は3回目のUPPのキャンプで初めて高校生として参加することになったけど、歳の近い、同じ高校生の参加者がいっぱいいてくれて、とても勉強になる3泊4日だったよ。今回のキャンプは前回と違って、自分たちで遊び道具を考えて作るのではなくて、前(昨年)のキャンプでみんなが作った遊び道具を補強したり、階段をもっとのぼりやすくりたんだ。でも、することが違っていても、みんなで協力して一つのものを作り出すのは楽しかったし、小さい子たちが一生懸命作業をしている姿は、都会でいるのとは違ったパワーにあふれていた気がしたよ。

特にあなたと同じくらいの歳の子が作業しているのを見ていると、いつも家の中でゲームばかりしているあなたも、ここに来たらもっと貴重な時間をすごせるんじゃないかな?と思ったよ。だから次のキャンプからは一緒に参加しようね。お姉ちゃんもしかしたら『ファシリテーター』っていう作業のお手伝いをする人になるかもしれないけど、きつとすごく楽しいと思うよ。

あなたは水について、どんな風に思ってるのかな?うちでは蛇口をひねればすぐ水が出るけど、外国には、何時間もかけて水をくみに行っている人がいるんだって。そんな子たちのことを少しでも理解できるように、水運びをしてきたんだけど、水は重いし手は痛いし、とっても大変だったよ。そんなことをせずにするためには、どうすれば良いと思う?また一緒に考えてみようね。

じゃあ、次のキャンプを楽しみにしててください。絶対楽しいからね。バイバイ!

お姉ちゃんより (高校生・女子)

家族のみんなへ

ぼくは、このキャンプで、日本より、たいへんまずい国があることを、知りました。とても悲しく思いました。さらに、そういう国の子どもは、遊びも出来ず、家の手つだいしかできず、学校にも行けないことも知りました。キャンプでも、そんな子どもがしている水はこびをやりました。とても重くて、「まずい国の子は、こんなことを1人でやっているのだなー。」と思いました。

公園づくりでは、ぼくたちミニトマトパックのたんとうする階段は、かんせいしましたが、ぼくがやろうと行った、エンジェルトレインのしゅうふくは、かんせいしませんでした。ブルスマイルの作ったそうこにしました。また、来年も来たいです。(小学生・男子)

新聞掲載記事

朝日新聞 2005年8月7日(日)
朝刊 地域面神戸版 32面



神戸新聞 2005年8月7日(日)
朝刊 地域面阪神版 29面



ユニセフパークプロジェクト 2005 サマーキャンプ 結果概要

参考資料:実施概要ほか

背景及び目的

ユニセフパークプロジェクトは、「子どもたちの子どもたちによる子どもたちのための公園づくり」を目指して、世界中の子どもたちの権利を守る活動をしている「ユニセフ」と国内の公園づくりを行う「国土交通省」が協力して進めているプロジェクトです。

プロジェクトでは、子どもたちが公園づくりを通じて、「世界とのふれあい」「自然とのふれあい」「人とのふれあい」を実現し、地球市民としての意識を育むことをねらいとしています。

活動は2001年から始まり、2005年3月には、12ヶ国の子どもたちが参加した「防災世界子ども会議」において、オープニングイベント「自然からの癒し、学び」としてキャンププログラムを実施し、震災を経験した

子どもたちや防災を学ぶ子どもたちへプログラムの提供を行うことができました。「自然からの癒し、学び」といったプログラムを実施できたことにより、里山において公園づくりを実施する「ユニセフパークプロジェクト」の可能性を広げることができました。

そこで今夏には、阪神・淡路大震災10周年事業から支援を得て、国内で地震の被害を受けた子どもたち(中越地震など)を招待し、公園づくりを通じて、震災時は脅威であった「自然」から、癒しや学びを得ることができるキャンププログラムを実施します。

開催期間・場所

2005年8月6日(土)～9日(火) 3泊4日

活動：国営明石海峡公園神戸地区(神戸市北区あいな)

宿泊：コープこうべ研修施設「協同学苑」(兵庫県三木市)

活動場所は豊かな自然が広がる里山で、宿泊場所はそこから車で30分の施設です。

参加者

総勢30名程度(新潟15名、神戸周辺15名 小学生～高校生を対象)

今回のキャンプには、海外の子どもたちは参加しません。

ファシリテーター(サポートするボランティア)は50名程度(高校生以上)

実施体制

主催：ユニセフパークプロジェクトファシリテーターグループ

協力：(財)日本ユニセフ協会

後援：国土交通省近畿地方整備局国営明石海峡公園事務所 社団法人 日本公園緑地協会

近畿コカ・コーラボトリング株式会社

協賛：神鉄バス株式会社、株式会社ジャパンリース



国営明石海峡公園神戸地区

国営明石海峡公園は、近年の余暇時間の増加に伴う、主として近畿地方の広域レクリエーション需要の増大に対応するため設置する大規模公園であり、併せて明石海峡大橋を中心とした明石海峡周辺地域の広域レクリエーションゾーンの形成に寄与するために整備を進めています。本公園は、「自然と人との共生、人々との交流」を基本理念として、里山の丘陵地に立地する「神戸地区(233.9ha)」と海に面した「淡路地区(96.1ha)」の二つの地区でそれぞれの環境特性を活かした公園づくりが進められています。このうち神戸地区は、里山の環境を守りながら、大規模公園としての特性を活かした憩い、散策、遊びなどを提供する森林自然環境に恵まれた公園として、計画・調査・設計を行っているところです。

ユニセフパークプロジェクト(UPP)

ユニセフパークプロジェクトの狙いの一つは、次世代をになう子どもたちが各国の子どもたちと自然の中で互いに協力し、遊び、生活することで、自らの発想と活動を自由に広げ、「自然や人とのふれあい」「異文化とのふれあいと国際交流」「年配者の持つ技術や知恵の継承と世代間交流」を活性化することにあります。ともに遊び、公園づくりという作業を通じて、世代、性別、国籍などを越えて体験を共有することにより、他者に対する理解を深め、思いやりの心を育てることを目指しています。また、交流の場を森林という自然環境の中に置くことにより、自然を肌で感じ取り、身近な生物や生態系に対する理解を深め、環境問題などに対する関心を喚起することも目指しています。さらには、子どもたちの自由な視点や発想による公園づくりという活動から、都市公園における新たな可能性、利用形態などについて検討しています。

ファシリテーターグループ

子どもたちの活動プログラムやそのサポートはもちろん、キャンプ実施中の様々な企画、運営はファシリテーターと呼ばれるボランティアにより行われます。これらのファシリテーターはただのボランティアではなく、自主的な運営主体として組織され、今回のサマーキャンプでは主催としてその役割を担っています。キャンプ、ワークショップの実施にあたっては、その企画、運営に合わせ、ファシリテーターとしての資質を高めるため独自に講習会なども実施しています。グループの構成は主に10代20代の大学生などが中心となっており、現在、総勢212人が登録されています。そのうち男性21名、女性30名の計51名が中心的に活動しています。

ユニセフパークプロジェクト 2005 サマーキャンプ 結果概要

参考資料: プログラムほか

3泊4日のプログラム

8/6 (土) 1日目	9:30	10:30	12:00	13:00	16:30	19:30	21:00
	三ノ宮 集合 移動	しあわせの 村集合 移動	昼食	里山にあいさつ ・仲良くなる ・里山を探検	移動 17:30 夕食 風呂	ユニセフ プログラム ・世界を知る	ふりかえ り 22:00 就寝
	三ノ宮	神戸市しあ わせの村	国営明石海峡公園 (雨天:協同学苑)		協同学苑		

8/7 (日) 2日目	6:30	9:30	12:00	14:00	16:30	19:30	21:00
	起床 朝食	遊び場づくり ・道具を知る。 ・材料をとる。	昼食 休憩	遊び場づくり ・材料をとる。 ・つくる	テント 設営	ナイト プログラム ・ナイトハイク	ふりかえ り 22:00 就寝
	協同学苑		国営明石海峡公園 (雨天:協同学苑)				

8/8 (月) 3日目	6:30	9:30	12:00	14:00	16:30	19:30	21:00
	起床 朝食	遊び場づくり ・遊び場の完成 ・まわりとつなげる。	昼食 休憩	遊び場づくり 他の班の遊び場を 見てまわり、遊ぶ	移動 17:30 夕食 風呂	キャンプ ファイヤー	ふりかえ り 22:00 就寝
	国営明石海峡公園 (雨天:協同学苑)				協同学苑		

8/9 (火) 4日目	6:30	10:00	12:00	14:00	15:00	15:30	16:00	17:00
	起床 朝食	発表・遊ぶ ・遊び場紹介 ・自由に遊ぶ	昼食 休憩	自由時間 ・記念撮影 ふりかえり	閉 会 式	移 動	しあわせの 村解散	三ノ宮 解散
	協同 学苑	国営明石海峡公園 (雨天:協同学苑)				神戸市しあ わせの村	三ノ宮	

これまでの活動

平成12年度よりユニセフパークプロジェクトに取り組んでおり、平成13年には80名の子ども参加を得てプレキャンプ(1泊2日)を試行的に実施し、同様に平成14年にも40名の子どもにより1泊2日のキャンプを開催しました。平成15年には、これまでの試行的なイベントでの結果をふまえ、タイ、フィリピンから海外在住の子ども10名を招待し「国際ワークショップ」(5泊6日のキャンプ)を実施しました。平成16年には、サマーキャンプで40名の子どもを呼び、平成17年3月には、阪神・淡路大震災10周年記念事業の一つ「防災世界子ども会議」とのタイアップにより世界各国の子どもたちを交えた国際ワークショップ(3泊4日のキャンプ)を実施しました。

近畿コカ・コーラボトリング(株)の活動支援

2004年8月に開催した「ユニセフパークプロジェクト2004 サマーキャンプ」より、近畿コカ・コーラボトリング(株)からコカ・コーラ製品の提供などを通じた活動支援を頂いています。ユニセフパークプロジェクトの狙いとする「世界とのふれあい」「自然とのふれあい」「人とのふれあい」は、近畿コカ・コーラが近畿圏に密着した企業として「お客様・地域とのふれあい」を最も大切に、あらゆる生活シーンに“うるおい”をもたらし、人と人の・地域と地域の絆を深めていきたいという企業姿勢と一致しているため、当プロジェクトへの活動支援を継続的に実施頂いています。近畿コカ・コーラは企業スローガンに「人と人をうるおすコカ・コーラ」を掲げ、地域社会への貢献活動を積極的に展開されています。



UPPを経験した子どもが、地球市民としての意識を持ったやさしい大人になり、世界の困難な状況を改善し、すばらしい社会をつくる、イメージイラスト